

研究・調査報告書

報告書番号	担当
163	滋賀医科大学社会医学講座福祉保健医学部門
題名 (原題/訳)	
Hepatitis B immunity in a population of drug and alcohol users. 麻薬常用者と飲酒者における B 型肝炎の免疫	
執筆者	
Polizzotto MN, Whelan G.	
掲載誌 (番号又は発行年月日)	
Drug Alcohol Rev. 2007 Jul;26(4):417-9.	
キーワード	
アルコール依存、薬物依存、B 型肝炎、予防接種、免疫	
要 旨	
<p>背景： この研究の目的は、オーストラリアの麻薬常用者や飲酒者の B 型肝炎感染の免疫レベルを調べることで、そういった人々の免疫状態の自己報告がどの程度妥当であるかを調べることである。</p> <p>方法： ビクトリアにある地域密着型の麻薬とアルコール依存離脱のための施設である De Paul House の利用者を対象に、治療を訪れる麻薬常用者と飲酒者を対象とした横断研究を行った。B 型肝炎血清抗原・抗体の測定と B 型肝炎免疫に関する自己報告とを調査した。</p> <p>結果： 118 人が参加した。その内の 22% は注射型の麻薬常用者で、48% は以前に注射型の麻薬常用者であった者、また、55% は飲酒者で、51% は担当医がおらず、73% は自分が B 型肝炎の免疫があるかどうか知らず、19.5% は免疫があると信じていた。しかし、この 19.5% の免疫があると信じていた者のうち 52.2% は、血清学的検査により免疫がないことが判明した。参加者のうち免疫があったのは 21% のみであった。</p> <p>この研究は、こうした人口を対象としたワクチンの効果を調べるために 1970 年代にオーストラリアで始まった研究の最初のものであり、免疫を持つ者の割合が少ないことを示したものである。こうした人々にワクチン接種をするための新しい対策が必要である。こうした人々の生活は時に無秩序であり、免疫状態の自己報告の妥当性が低く、医療のプライマリケアとの連結も欠如していることを考慮しておく必要がある。</p>	